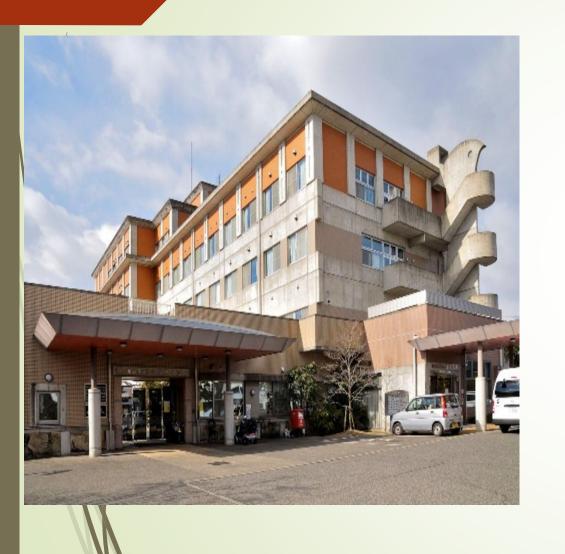
スピーチロック、 できる宣言で意識改革

広島県 介護老人保健施設ぬまくま 看護師 神原 佐世子

施設概要



場所 広島県福山市 ベット数 60床 超強化型施設 併設病院 沼隈病院

(202年度平均) 在宅復帰率 64.8% 要介護4.5割合 55.5% 平均介護度 3.32

<はじめに>

身体的拘束適正化検討委員会 3か月に1回開催

身体拘束 3つのロック

- ・スピーチロック
- ・フィジカルロック
- ・ドラックロック

注目 スピーチロックを減らす 行動目標「できる宣言」唱和

<目的>

- ・「できる宣言」を唱和することで職員お意識改革を行う
- ・ 行動制限せず、利用者の方が日々穏やかに入所生活ができる

く方法>

- ・ 3か月に1回の委員会で、検討し「できる宣言」を作成
- ・朝のミーティングの際に唱和する
- ・職員へのアンケート

くできる宣言>

- ・立たないで!座っといて!はNGワード、どうされましたか?と変換しよう
 - ・優しい声掛け心がけ、イラっとしたら一呼吸
 - ・取り組もう!みんなの過ごしたくなる場所作り
 - ・誰から見ても気持ちいい、声掛け態度やっていこう
 - ・忙しい時こそ一呼吸、利用者様の思いに寄り添おう

<結果 考察>

- 1問目「できる宣言」を唱和することで自己の行動に変化がありましたか?
 - 「ちょっと待ってください」と言った後に「あっダメだ なと意識するようになった
 - ・朝一番に唱和することで意識付けとなり、利用者への対応に注意を払うようになった
 - 「どうされましたか」と声かけするように意識するよう になった

- 2問目「できる宣言」を唱和することで意識することがきると思いますか?
 - ・言葉に出し耳で聴くことにより、脳に働きかけること ができる
 - 自分の頭の中に残り、ふとした場面で思い出し気を付けることができる
 - ・個人差があると思うが、言葉に出すことにより自分は どうか毎回振り返り意識しながら職務に従事できると 思う。

<終わりに>

- ・利用者の対応には個人差がある
- ・組織として心理的安全性を築くことが必要である
- ・認知症の方の対応について知識を深めていくことが 必要である

